

柔道部

今回柔道部で北信越大会に出場する選手は、小森悠生さん(3-2)、浅井良さん(3-4)、奥谷優斗さん(2-2)、英井碧波さん(2-5)の四名。

「柔道部は先輩・後輩関係なく仲が良く、家族のような関係性である。練習では楽しんでやること意識していて、つらいと感じたことはない。勝つためには、柔道を最大限に楽しんで、仲間と協力してお互いに高めあうことが大切です。」

そう答えてくれたのは、柔道部キャプテン定政智也さん。定政さん自身は腰を痛めており、試合には出



←柔道場にて撮影 左から英井碧波選手・奥谷悠斗選手、浅井良選手、小森悠生選手

場することができないが、北信越出場が決まった時は三年間の成果が出てうれしく感じたそう。今回、キャプテンとして出場するメンバーに「結果がどうであれ、何か一つでも得てほしい。自分に自信を持って正々堂々戦ってきてください」と熱いエールを送っていた。



↑柔道部の練習の様子 投げ技をしようとしている

なぎなた部

「なぎなた部は明るく、一生懸命で切磋琢磨できるチームです」そう答えたのは、なぎなた部キャプテンの市川真衣さん。

毎日の部活動では、前回の練習よりも良い技を繰り出す気持ちを持ち、常に本番と同じ気持ちで練習することを心がけている。それでも、技がうまく決まらなかったり、先生に指摘されたことがなかなか直せなかったりと、つらいこともあるが、めげずに練習に励んでいる。また、勝つためには技術だけ

でなく、気持ちも大切だという。最高の試合ができるようにメンタルトレーニングを行い、緊張しすぎて体が動かなくなるようなないようにしているそう。

「北信越出場が決定的なときは三年生として試合に出れるのももちろん、また皆で練習を頑張ることができるともあって、とても嬉しかったです」と振りかえる。そして、「優勝を目指して頑張ります」と北信越大会に向けての意気込みを力強く語ってくれた。



↑優勝旗と賞状を持って全員で記念写真

アーチェリー女子

三人一チームの団体戦。このチームの良いところは、チームの誰か一人の調子が悪い時に、その原因や解決策をチームのみんなで見つけることができる。また、切り替えが早く試合に集中できる

ところ。キャプテンの高橋あいらさんからみたチームの印象だ。

状況によって一本一本の当たり方が異なるため、毎回同じように射ることができるようになるための強化も心がけている。春季総体では鯖江高校女子団体初優勝を勝ち取った。今回はその新しいチームになって初めての北信越大会でもある。緊張も今まで以上に感じるはずだ。悔いが残らない試合にするよう、メンタル強化同様練習にも自然と力がいはい。



↑春季総体の試合の様子 白のシャツを着ている選手が鯖江高校生徒(新聞記事からの抜粋) 右から中島、高橋、鈴木

アーチェリー男子

「個人競技のため、他のメンバーとの関わりは他の部活より劣りますが、一人一人が集中して、良い雰囲気活動できています。練習では特有の緊張感があり心地よく感じます。練習で思い通りの点数が出ないときはつらいと感じますが、ポジティブを意識して練習に励んでいます」そう答えてくれた

のは、今回北信越大会に参加するアーチェリー男子のキャプテンでもある桜井凌翔さん。春季総体を経て、北信越大会に出場が決まった時は久しぶりの県外にわくわくしたそう。

改めて北信越大会への意気込みを聞くと「久しぶりに行く県外に喜びの気持ちもありましたが、それ以上に大会に向けて熱意とやる気が出ました。上位入賞目指して頑張ります」と語ってくれた。



↑白のシャツを着ている生徒が桜井さん。

編集後記

初めての新聞作りだったので難しかった。またとても大変でした。しかしそれ以上に達成感があり、完成をすることができ、とても嬉しいです。

柔道部の奥谷優斗さんは、けがのため大会に出場することはできませんでしたが。水泳部も北信越大会に出場するので応援よろしくおねがいします。選手一人一人が出せる全力を出し最後まで頑張ってくれることを願っています